

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
		研究室配属 (Practical Research Experience Program : PREP )					研究科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修		3	医学部先進医療科学科	通年	火3,木5	日本語	英語	複数(共同)、クラス分け								
担当教員	氏名 全教員 E-mail 内線															
授業の概要	研究活動に従事している医師・研究者から早期に研究指導を受けることにより、研究の重要性・醍醐味を知り、研究倫理、研究的探究心(リサーチマインド)を育むことを目的とする。また、将来の科学研究を担う融合人材、且つ研究チームの一員として協調的な学修環境の中で問題解決能力を高め、幅広い研究領域に対する学修意欲の向上につなげる。研究室配属 は、研究室配属 を基盤に、各研究室の指導教員の指導のもとで各自テーマを設定し、問題解決能力を養い、卒業研究へと繋げていく。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 必要な課題を自ら発見できる。																
目標2 課題を解決する方法を発見し、課題を解決できる。																
目標3 課題の解決に当たり、他の学習者や教員と協力してより良い解決法を見出すことができる。																
目標4 実験・実習の内容を決まった様式に従って文書と口頭で発表ができる。																
目標5 新たな仮説を設定し、解決に向けて科学的研究に参加することができる。																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									2	1	2	2	1	2		
授業の内容																
1 特定の研究テーマに焦点を絞り、それを扱う研究室で実際の研究活動に従事し経験を深める。																
2 様々な研究テーマの存在について知り、それらのテーマを解明するための方法論を実践する。																
3 2を通じ、発見の喜び、研究者の苦悩、研究者間の交流や情報交換などに直接触れる機会を持つ。																
4 研究室で行われている研究・実験の補助から共同研究者としての活動を行う。																
5 実験やフィールドで得られたデータの処理、解析を指導教員や大学院生とともに行う。																
6 「研究室配属」の期間終了後、成果をレポートにて提出する。																
7 研究室配属実行委員を学生から選出、配属先決定等企画運営を含め、専任教員の指導により学生主導で行う。																
8 将来の学会運営と発表のシミュレーションを行うことも目的とする。																
9 [研究成果のレポート提出] 1. 報告書																
10 指導教員の指示に従い、期間内(先行配属期間も含む)に実施した内容をまとめる。																
11 例)「課題解決研究」のまとめ方 目的(研究背景)、方法、結果(図表を含めてもよい)																
12 考察、(必要であれば)参考文献といった一般的な論文形式でまとめることとする。																
13 また、報告書の作成に当たっては、実施内容を実習参加学生にも理解できるよう努める。																
14 学生の研究 実施分野以外の領域への理解を深め、今後の学習意欲の向上を図る。																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																
26																
27																
28																
29																
30																
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		A:研究プロセスを繰り返し復習する。 B:同じ領域の学生や教員との意見交換を行う。 :研究実践活動、レポート作成				工夫	・グループワークや口頭発表を行い、研究計画や結果について他の学生や教員と意見を交換する。 ・担当教員と研究結果の実践応用について議論する。								

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	文献検索に慣れる。原著論文などさまざまな形式の論文を読む。( 68 h )。										
	事後学修	研究結果について、他の学生や教員と議論する。( 68 h )。										
	想定時間合計	136										
教科書	なし											
参考書	なし											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	研究への取り組み方	20%										
	レポート提出	80%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	教員の实務経験 医師、臨床検査技師、臨床工学技士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	医師、臨床検査技師、臨床工学技士											
実務経験を いかした教 育内容	医師・臨床検査技師・臨床工学技士・研究者としての経験から課題を抽出し、研究の方法や進め方、結果の解釈および考察の仕方の実際についての学習を支援する。											